

令和5年1月1日

第223号

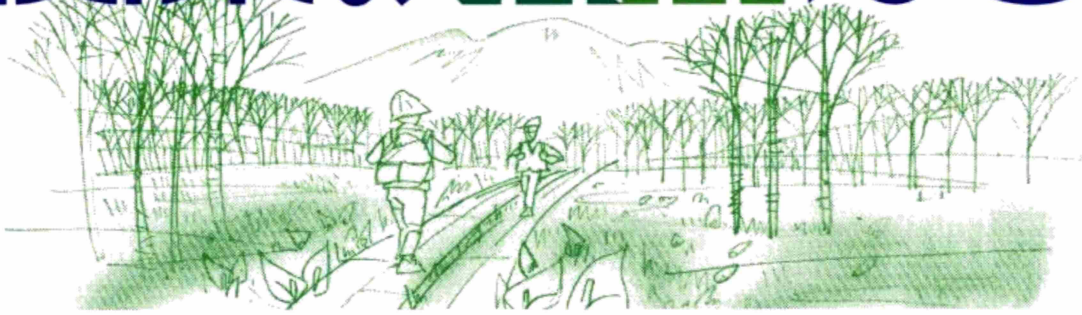
関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
<https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



【写真】富士山と駿河湾（静岡森林管理署）

令和5年 新年のご挨拶

関東森林管理局長 赤崎 暢彦・・・2

小笠原の島から～高校生への森林環境教育～

小笠原諸島森林生態系保全センター・・・3

「令和4年度国有林野等所在市町村長 有志協議会」を開催 企画調整課・・・4

森づくり最前線

茨城森林管理署大子森林事務所 森林官 真壁斎・・・6



令和5年 新年のご挨拶

関東森林管理局長 赤崎 暢彦

令和5年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様方には、日頃より関東森林管理局の業務運営はもとより、林野行政全般にわたり、ご理解とご協力をいただいております。厚く御礼を申し上げます。

昨年は、8月の大雨、台風第15号などにより、関東森林管理局管内において甚大な被害が起きました。亡くなられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。また、現場で復旧・復興に御尽力されている関係者の皆様方に心から御礼申し上げます。

近年の山地災害等が激甚化・頻発化する傾向を鑑みますと、荒廃山地の復旧整備を始めとした森林整備や治山対策の重要性が一層高まっています。関東森林管理局といたしましても、一日も早い復旧・復興に向けて全力で取り組むとともに、災害に強い森林づくりを推進することにより、安全・安心の確保に努めてまいります。

新型コロナウイルス感染症が依然として社会・経済に影響を及ぼしている中、いわゆるウッドショックやロシア・ウクライナを巡る情勢、為替の急激な変動など、森林・林業・木材産業を取り巻く情勢はその複雑さを増しております。当局といたしましても、引き続き、各地域の需給動向を注視しながら木材の安定供給等に努めてまいりたいと考えております。

また、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の推進に向けて、当局では、昨年プロジェクトチームを立ち上げ、造林事業の低コスト化・省力化、生産事業の効率化、シカ被害対策等に取り組んでいるところです。得られた成果等を民有林関係者にも展開することで、地域の林業振興へ貢献してまいります。

さて、林野庁では、令和3年6月に改訂した森林・林業基本計画に基づき、森林資源の適正な管理・利用を通じ、林業・木材産業の持続性を高めながら成長発展させることで、社会経済生活の向上と2050年カーボンニュートラルに寄与する「グリーン成長」の実現に取り組んでおります。本年は特に、林業の収益性の向上につながる経営モデルの実証取組への支援、デジタル技術を活用し生産性の高い林業を実践する「デジタル林業戦略拠点」の構築、昨年10月に変更された「林業労働力の確保の促進に関する基本方針」に基づく人材の確保・育成の推進、森林由来のJ-クレジットの活用推進、「都市（まち）の木造化推進法」に基づく中高層建築物をはじめとした木材利用の拡大等に取り組むこととしております。当局といたしましても、このような施策に適切に対応してまいります。

国有林は、国民共通の財産です。国民の皆様のご意見・ご要望をよく聴かせていただき、適切な業務執行体制の下、期待に応えられるようしっかりと仕事を進めていきたいと考えております。

関東森林管理局の広報誌「関東の森林から」では、関東森林管理局の取組をよりわかりやすく皆様にお伝えしてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆様にとって健康で幸多い年となりますよう祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

小笠原の島から ～ 高校生への森林環境教育 ～

小笠原諸島森林生態系保全センター



小笠原諸島森林生態系保全センターでは、世界自然遺産「小笠原諸島」の約8割の面積を占める国有林をフィールドとした森林環境教育を実施しています。今回は、地元父島にある都立小笠原高等学校1年生に向けて行った森林環境教育について紹介します。

小笠原高等学校では、小笠原の自然を未来に引き継ぐため、世界自然遺産地における自然保護活動のあり方を知り、活動の仕方について理解を深めることを目的に、毎年、兄島において校外学習を行っています。今年度は、当センターのほか、環境省小笠原自然保護官事務所、小笠原村等と連携して校外学習を実施しました。その前段として事前授業では、小笠原特有の乾性低木林や小笠原の生態系を脅かす外来の動植物、それらを駆除し固有の生態系に戻すための修復事業等について学習させ、校外学習に臨みました。

兄島は父島列島の一つで、父島の北800mほどに位置する無人島です。島全体が岩石地で土壌が浅く水の確保や耕作が難しいことから開拓が少なく、小笠原で最大の乾性低木林が現存しています。一方、過去には捕鯨基地や旧日本軍が駐留していたことがあり、モクマオウ、ギンネムなどの外来種が持ち込まれ、貴重な植生環境に影響を与えています。

今回、小笠原高等学校の生徒には外来種の一つであるランタナの駆除作業を体験してもらいました。ランタナは、鮮やかな花を咲かせ園芸種としても用いられますが、繁殖力が非常に強く「世界の侵略的外来種ワースト100」に指定され、在来植生への影響度が高い植物です。また、根が強く複雑に絡まっているため、駆除に手間がかかります。当日はあいにくの空模様でしたが、背丈ほどの高さのランタナをどンドンと駆除していきました。駆除の跡地には、近くの林から拾い集めたモモタマナ（在来種）の種をまき、駆除の大変さや本来の生態系へ戻すことへの困難さを体験してもらいました。生徒からは「兄島には初めてきたが、自分たちがまいた種が大きく成長した姿をまた見に来たい」などの声が聞かれ、貴重な経験となったと思います。

当センターでは、世界自然遺産である小笠原の自然の希少性や保全の重要性を多くの人に知っていただくため、今後も森林環境教育等を行ってまいります。



▲ ランタナ



▲ ランタナの駆除



▲ モモタマナの種まき



▲ 集合写真

「令和4年度

企画調整課

国有林野等所在市町村長有志協議会』を開催

1 国有林野等所在市町村長有志協議会とは

国有林野等所在市町村長等有志協議会（以下、「有志協議会」という）は、国有林野等の所在する地域の市町村長と森林管理署長等で構成しており、関東森林管理局管内の174市町村を19流域に分けて流域ごとに有志協議会を設立し、森林管理署等に事務局を置いています。

有志協議会では、地域社会と国有林野事業の連帯の強化を図り、地元農山村の社会経済の発展と国有林野事業の円滑な遂行に寄与することを目的として、市町村長等との意見交換を実施しています。



▲挨拶する赤崎森林管理局長
(会津地区の有志協議会)

2 令和4年度国有林野等所在市町村長有志協議会の開催

今年度の有志協議会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を行った上で、10月31日の福島県中通り地区を皮切りに、12月末までに栃木県、福島県会津地区、静岡県、新潟県、茨城県、福島県浜通り地区において開催しました。

各地域の有志協議会では、関東森林管理局から木材の安定供給等について、各森林管理署から自署の取組事項について説明するとともに、各県と各市町村からも情報提供をいただき、その後意見交換を行いました。昨年は新型コロナウイルス感染症まん延防止のためWEB開催としたところですが、今年度は対面での開催となり活発に意見交換が行われました。



▲茨城県内の有志協議会

市町村長等の皆様から、

- ・豪雨により被災した山林について、治山事業を積極的に推進してほしい
- ・国有林野内の廃業したスキー場の施設について、景観上問題があるので対応をお願いします
- ・レクリエーションの森に指定されているハイキングコースについて、今後とも利用者が安全安心に利用できるように支援してほしい
- ・地域の伝統工芸品の原材料の確保が困難になっており、原材料となる木材等について情報提供してほしい
- ・有害鳥獣捕獲対策について、国、県、市町村と連携し取り組んでほしい
- ・森林経営管理制度や森林環境譲与税を活用した事業の推進のため、専門的な知識を持つ森林管理局・署の支援・指導をお願いします
- ・木材生産作業を効率的に行うため、国有林と民有林での一体的な森林作業道の開設や施業を行いたいので、情報を共有する会合を定期的で開催してほしい
- ・二酸化炭素実質排出量ゼロを目指し、市内の民間事業者が小型の木質バイオマス発電施設を複数台設置しているため、長期・安定的な木材供給について協力してほしい
- ・小学生等を対象とした森林環境学習の実施にあたり、森林管理署から講師を派遣していただき感謝している。今後も緑の普及啓発活動への協力をお願いします



▲会津地区の有志協議会

・ナラ枯れ被害状況の情報を共有し、連携して被害対策に取り組んでいきたい等のご意見・ご要望をいただきました。また、各地域の森林・林業・木材産業についての取組状況をご報告いただきました。

さらに、19流域の有志協議会からの代表市町村長等にお集まりいただき、意見交換等を行う「国有林野等所在市町村長等有志連絡協議会」を12月23日に開催しました。

関東森林管理局では、これらの協議会を通じていただいたご意見・ご要望を踏まえ、地域社会と連携した国有林野の管理経営に取り組んでまいります。

事務改善コンテストの表彰式を開催 企画調整課

関東森林管理局では、便利な集計等の様式やプログラム、これらに関するマニュアルの作成等、業務をより効率的に実施するために創意工夫をこらした取組を促進するため、事務改善コンテストを実施しています。

12月19日に、令和4年度のコンテストで特に優良と認められた提案（最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞2点）を行った5人の職員への表彰式を実施しました。

表彰式は、新型コロナウイルス感染症対策のためweb開催となりましたが、赤崎局長より受賞者に対するお祝いの言葉と、「引き続き業務の簡素化等に取り組んでいただきたい」との挨拶がありました。

その後、局長と次長から賞状の授与が行われ、受賞者から喜びの声や提案の趣旨等を話していただきました。

また、視聴していた多くの職員から、祝福のメッセージが寄せられるなど、web開催ならではの表彰式となりました。



▲ 賞状を授与する赤崎局長
(モニター画面は受賞者)

小学生が職場見学に来ました！ 総務課

前橋市立岩神小学校3年生の児童16人が、総合的な学習の授業の一環として、11月21日（月）に関東森林管理局に見学に来ました。

私たちの仕事内容や森林のはらたきについて説明した後、実際に仕事で使用する道具を見たり触れたりしてもらいました。短い時間でしたが、関東森林管理局の仕事に興味を持ってもらえたのではないかと思います。



今月の表紙

富士山と駿河湾 静岡森林管理署

我が国の最高峰（標高3776m）である富士山は、静岡、山梨県境をまたぐ独立峰で2013年（平成25年）には富士山とその周辺の構成資産が「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」の名称でユネスコ世界文化遺産に登録されました。その秀麗優美、端正な山容は日本の象徴として知られ、古より霊峰とされ、数多くの信仰と芸術を生み出した世界的な観光地として国内外を問わず毎年多くの人々が訪れています。

また、富士山南麓の国有林には、1970年（昭和45年）に全国で初めて指定された「富士山自然休養林」があり、キャンプ場や遊歩道も整備され、ブナ、ミズナラなどの天然林やヒノキ、ウラジロモミなどの人工林を散策することができます。



森づくり最前線

茨城森林管理署 大子森林事務所
森林官 真壁 齋

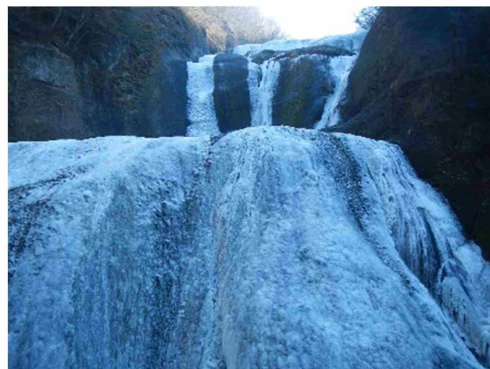
私が勤務している茨城森林管理署大子森林事務所は、茨城県の最北西にあり、北は福島県、西は栃木県に接する県際地域に位置します。事務所が所在する大子町は、町の約8割は八溝山系と阿武隈山系からなる山岳地で、当事務所は約4,360haの国有林を管理経営しています。

管内には標高1,022mの八溝山（やみぞさん）があり、八溝地域はヒノキのほぼ北限として知られ、全国有数の良質木材「八溝材」の産地です。江戸期は徳川家の直轄領、明治期以降は良く手入れされた国有林が多く、平均気温が低く雨量が少ないなどの気候特性と相まって、高品質のヒノキとスギを産出しています。八溝材は、特有の光沢・芳香があり、耐久性に優れ、木目の詰まりが良く、曲げに強く、狂いが少ないことから、木材業界で高い評価を受けています。

また、長さ120m、幅73mを誇る日本三名瀑の一つである「袋田の滝」があります。茨城県を代表する観光スポットの一つであり、平成27年3月には袋田の滝の上流にある生瀬滝を含め、国指定の「名勝」となりました。更に、「日本三名瀑の袋田の滝と新緑・紅葉、奇岩・怪石の男体山」一帯の「奥久慈自然休養林」は、林野庁において平成28年3月に観光資源として重点整備する「日本美しの森お薦め国有林」に選定されました。

茨城森林管理署では地元自治体等と連携し、平成29年度から案内標識や誘導標識等を整備しており、訪れた皆様に好評をいただいているところです。

管内は、充実した人工林に加え、優れた自然景観を有しています。地域林業の貢献はもとより、多くの方々に美しい森林景観を味わっていただけるよう、地域と森林管理署のパイプ役である地域統括森林官として、引き続き努めてまいります。



▲ 氷結した「袋田の滝」（令和3年撮影）



▲ 整備された案内標識
(4か国語の「ユニボイス」プレート)



◀ 整備された誘導標識
(英文表記併記)



▲ 訪れた方に案内標識を説明する筆者